
魔法先生ネギま! ～暇人の転生～

裕介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！ ～暇人の転生～

【Nコード】

N0912Y

【作者名】

裕介

【あらすじ】

何処にでもいそうな少年が死に、転生をする。転生後の姿はネギ！？ 神からいくつかの能力をもらいネギまの世界で悪戦苦闘（笑）をするお話です。チート、駄文、亀更新でもよいという方はぜひお読みください。

注意書き

「この小説を読むにあたっての注意」

・この小説の作者は現在高校受験の真っ最中です、途中で打ち切りや削除などをするかもしれません。

・作者は初心者です、生温かい目で見てください。

・亀更新？いいえそんなものじゃないあわせません。

・クリーム等はお控えください作者の豆腐メンタルが飛び散ります。

・修正してほしいところ、誤字脱字などがあればぜひ言ってください。

これらのことが許容できない場合は、ブラウザの戻るを押すかペー
ジを閉じる、ログオフ、シャットダウン、パソコンの粉碎のいずれ
かをやって下さい。

1話 転生（前書き）

やってしまった。ついにはやってしまった。まあ、打ち切りにならないよう頑張ります。

1話 転生

俺は中学三年生だった。朝起きて、学校へ行き、帰って来て、勉強をして、寝る。日常はほとんど変化がなく、刺激も何もない平凡な時間だけが過ぎていた。このことを羨む人もいるだろう。だが、俺はこの生活に飽きていた。学校の成績のいい奴、スポーツのできる奴、イケメン、このような人たちが、この日常の主人公だと思ったら、頭も普通、スポーツも人並み以下、顔もいいわけでもない俺はきつと脇役、良くて主人公の友人F程度だろうと思っていた。

ある日、また同じ日常が過ぎていくのだろうと俺はその時まで思っていた。そう、目の前に車にひかれそうになった少女を見つけた時までは。俺は気が付くとその少女を突き飛ばし、もう逃げることもできないところまで車が迫っていた。このときからの記憶はない。だが、俺はたぶん笑っていたのだろう。なぜなら俺は日常の脇役から非日常の主人公へと変わりたいと願っていたはずなのだから。俺は転生という人生の転機を望んでいたはずなのだから。

と、恰好をつけたものの、

俺「此処は何処なんだ〜！」

れれれ冷静になれ、まずは落ち着いて現状を整理しよう。

通学

←

ひかれそうになった少女発見

←

代わりにひかれる

←

白い空間↑いまここ

死んでるよね！俺、s「そのとうりだ。」

俺「誰だ！」

？「神だ！」

其処にいたのは金髪イケメン……死ねばいいのに。

神「神に向かって死ねとは何事だ！」

心を読まれた！神というのは嘘ではないようだな。

俺「何で神様が俺のところに？俺はただの名もなき亡霊ですよ。」

神「お前が千年に一度ぐらいでおきる世界の矛盾によって死んだんだ。実際は膨大な量の矛盾に耐えきれずに魂が砕け散ってしまうから俺ら神々が集めて直さなくちゃならねえんだが、お前の魂は矛盾に耐えきったんだ。そこで、神々が話し合った結果、お前を転生させる事にした。転生先は【魔法先生ネギま！】で、願いは6つまでだ。それと、あの少女は助かったぞ。後遺症もない。」

まさかの転生！死んで、友人や家族に会えないのは残念だがラッキーだ。っとその前に。

俺「世界の矛盾って何だ？」

神「世界には必ず矛盾というものが生じる。それがどんどん溜まっていき世界を圧迫していった時、世界は自身を守るために一人を生贄にしてそこに矛盾を流し込むんだ。今回がお前だったってことだな。」

俺「そうか。分かった。じゃあ願いを言うぞ。」

1. 東方Projectの能力
 2. NARUTOの影分身
 3. 鍛えた分だけ強くなるステータス
 4. 一秒が1不可説不可説転年になるダイオラ魔法球
 5. どれだけの知識を詰め込んでも大丈夫な脳
 6. 俺の助けた少女を幸せにしてやってくれ。
- 以上だ。」

神「最後のはそれでいいのか？お前にはもう関係ないんだぞ。」

俺「特に思いつかないしな。それに目の前で人がグロ画像のようになったらトラウマだろ、それにいじめられるかもしれない。そして、俺のせいじゃないか。」

少なくとも俺はトラウマになるな。

神「命を助けただけでも十分だと思うんだが……。まあいい、一番問題なのは4だ。なんだ1不可説不可説転年って。何するつもりだよ。1時間もいればそこら辺の神より年上になるぞ。」

俺「修行するつもりだがダメか？」

神「まあいいや、お前はネギとして生まれる。能力とかは悪魔襲来のあとに渡すぞ。」

俺「分かった、じゃあな。」

神「ああ、気を付けろよ。」

吸い込まれるぞ。」

俺の隣に穴が開いた。と同時にその穴にものすごい勢いで吸い込まれた。

俺「ちよおおおおお……」

く神sideく

神「行ったか。」

まあ、全力でアフターサービスをしてあげましょうかね。

1話 転生（後書き）

いかがでしょうか。はい、駄文ですね。しょうがないじゃないか！俺だって好きで駄文を書いているわけじゃないんだ！誰か俺に文才を分けてくれ！

まあ、頑張っというと思います。応援（してくれる人がいるかわかりませんが）よろしくお願いします。

2話 転生後

転生して数年が経った。ネカネ姉さんやアーニヤと仲良く過ごしており、平和な毎日である。【火よ、灯れ。アールデスカット】も使えるようになり、おそらく悪魔襲来はもうすぐだろう。憂鬱だよ。

そんなこんなで悪魔襲来

目の前で石化する人々を見ていると逃げることにしかできない自分が悔しい。そのうち、石化を解きにこよう。今はネカネ姉さんやスタンさん、父さんを探すことが最優先だ。

少年探索中

スタンさんとネカネ姉さんを見つけた。

―ザッ―

ネギ「っ!?!」

後ろに悪魔が!?!避けられない!

ネカネ「ネギ!」

ネカネ姉さんとスタンさんが僕を庇って石化され、ネカネ姉さんの足が碎けた。

ネギ「姉さん!」

スタン「ヘキサグラマ・エト ペンタグラマ マロース・スピリトゥスギレントラゲーナ・シグナートーリア【六芒の星と五芒の星よ悪しき霊に封印を封魔の瓶！】」

スタンさんがスライムとヘルマンと思われる悪魔を封印した。

ーグガアアアアー

また悪魔達が召喚された。一体が此方にむかって爪を振り下ろしてきた。避ければネカネ姉さんにあたる！？クソッ！

ネギ「がつ！」

痛い痛い痛い痛い痛い痛い！背中が焼けるように痛い！他の悪魔達も近づいてくる。能力も貰えずに死ぬのか…。

ーゴウー

目の前の悪魔達が消し飛んだ。これは…。

？「大丈夫か！ネギ！」

ネギ「父…さん…。」

意識が消えそうになるが声の主を探すと、父さんが駆け寄ってきた。

ネギ「遅いよ…英雄…。」ヒーロー

そう呟いたところで意識が途切れた。

2話 転生後（後書き）

みじけえ！すごくみじけえ！

修正してほしいところ、アドバイス、感想、誤字脱字などがあれば
言ってください。マジお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0912y/>

魔法先生ネギま！ ～暇人の転生～

2011年10月31日15時18分発行